

札幌交響楽団

2020年2月7日 金

19:00開演 \ 18:30開場

サントリーホール

Friday, February 7, 2020 at Suntory Hall, Tokyo

シューベルト(ウェーベルン編): ドイツ舞曲 D820
Schubert (Arr. Webern): 6 German Dances D820

マーラー: 亡き子をしのぶ歌
Mahler: Songs on the Death of Infants

ベートーヴェン: 交響曲第7番 イ長調 op. 92
Beethoven: Symphony No.7 in A major op. 92

Sapporo Symphony Orchestra in Tokyo

指揮
マティアス・バーメルト

Matthias Bamert
Chief Conductor

©Yasuo Fujii

2020

チケット料金 全席指定・消費税込

S 6,000円 A 5,000円

B 4,000円 C 3,000円

※シルバー券 65歳以上S席、A席から1,000円引き(取扱いはカジモト・イープラスのみ)

チケット発売 10月9日(水)発売開始

カジモト・イープラス ☎ 0570-06-9960 <http://kajimotoeplus.com/>

チケットぴあ ☎ 0570-02-9999 (Pコード 165-213)

e+(イープラス) <http://eplus.jp>

ローソンチケット ☎ 0570-000-407 (Lコード 33957)

サントリーホールチケットセンター ☎ 0570-55-0017

都警ガイド ☎ 0570-056-057 <https://www.tmsso.or.jp>

主催 公益財団法人 札幌交響楽団

マネジメント KAJIMOTO

協賛 ①ホクレン

協力 ② JAPAN AIRLINES

公益財団法人 東京都交響楽団
パシフィック・コンサート・マネジメント

助成 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁

お問い合わせ カジモト・イープラス ☎ 0570-06-9960

札幌交響楽団 ☎ 011-520-1771 www.sso.or.jp

バリトン
ディートリヒ・ヘンシェル

Dietrich Henschel
Baritone

©Susanne Diesner

東京公演

2018年に首席指揮者に就任したマティアス・バーメルトが迎える、札幌との2度目の東京公演です。
今回はバーメルトにとって思い入れの強い曲目とソリストを揃えた、こだわりのプログラムとなっています。

シューベルトの「ドイツ舞曲D820」はピアノ独奏のための1824年の曲ですが、
1931年のウェーベルンによるオーケストラ編曲によって注目を集めるようになりました。

「作曲家と作曲家の出会い」を札幌での2シーズン目に
テーマとして掲げていたバーメルトは、シューベルトとウェーベルンとの
時を超えた融合による傑作を演奏会の導入にすえました。
それは演奏会後半の、シューベルトが尊敬するベートーヴェンの
生誕250年記念へとつながります。

この2曲の間には、マーラーの「亡き子をしのぶ歌」が入り、バーメルトの
強い希望により名バリトンのディートリヒ・ヘンシェルが札幌と初共演を果たします。

札幌サウンドと歩みはじめて2年、
バーメルトならではの精緻な音楽にご期待ください。

マティアス・バーメルト

首席指揮者

Matthias Bamert, Chief Conductor

©Yasuo Fujii

母国スイスとダルムシュタット、パリで音楽を学び、作曲をピエール・ブーレーズと
カールハインツ・シュトックハウゼンに師事した。ザルツブルク・モーツァルト管
弦楽団の首席オーボエ奏者を務めた後で、指揮者に転向。指揮者としての
キャリアはアメリカでジョージ・セルに師事することから始まり、レオポルド・
ストコフスキーの助手を、さらにロリン・マゼールが音楽監督のクリーヴランド
管弦楽団で正指揮者を務めた。

これまでにバーゼル響、ロンドン・モーツァルト・プレイヤーズ、西オーストラリア
響、マレーシア・フィルの音楽監督等を歴任。また、ロイヤル・スコティッシュ・
ナショナル管、ニュージーランド響、韓国テジョン・フィルの首席客演指揮者、
ロンドンのロイヤル・フィルの副客演指揮者、グラスゴーの現代音楽フェスティ
バル「ムジカ・ノヴァ」、ルツェルン音楽祭の監督を務めた。

英国でフィルハーモニア管、BBC響、ロンドン・フィル、バーミンガム市交響楽団、
BBCフィルをしばしば演奏会や録音のために指揮、BBCプロムスも頻繁に
出演。そのほかクリーヴランド管、ピッツバーグ響、ロサンジェルス・フィル、パリ
管、モントリオール響、レニングラード・フィル、シドニー響、N響など世界各地の
オーケストラに登場している。CDの録音もこれまでに80以上あり、それらは数々
の国際的な賞を受賞している。

2018年4月札幌交響楽団首席指揮者に就任。

ディートリヒ・ヘンシェル

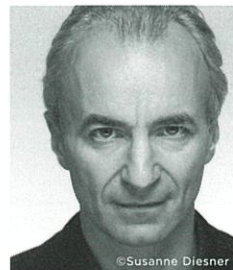
バリトン

Dietrich Henschel, Baritone

ミュンヘン・ビエンナーレでデビュー後、リヨン歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラで国際的
キャリアをスタート。以降、ミュンヘン、アムステルダム、ブリュッセル、リスボン、マドリド、
ジュネーヴ、パリなどの歌劇場、ザルツブルク、エクサン・プロヴァンス、フィレンツェなど
の音楽祭に出演多数。アーノンクール、ガーディナー、ヘレヴェッヘ、ヤーコブス、
エッセンバッハ、リリング、クリスティ、ペトレニコ、ナガノ、メータ、ドホナーニ、アルブレヒト、
ラトル、ティーレマンなどと共演。

リート歌手としての評価も極めて高く、アーヴィン・ゲージ、フリッツ・シュヴァイング
ハンマー、ヘルムート・ドイチュ、岡原慎也らのピアニストと共演。近年は、名歌曲の
豊かな文学的内容を視覚化させようとのプロジェクトに取り組み、2010年シューベルト
『白鳥の歌』舞台版にモノ劇場、アンデア・ウィーン劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー
などで出演。2013年、映像プロジェクト『IRRSAL (狂気の禁じられた祈禱者
たち)』をトーンハレ・デュッセルドルフで初演、メーリケ
の詩によるヴォルフ歌曲の濃密な音楽世界が話題
を呼んでいる。最近の映像プロジェクト『WUNDER-
HORN (不思議な角笛)』は、マーラー「子供の不思議
な角笛」全曲コンサートをデ・ドレーン、BBC響、モノ
劇場と協同で進め、2016年に初演された。

公式ホームページ <http://www.dietrichhenschel.de>



©Susanne Diesner

札幌交響楽団 Sapporo Symphony Orchestra

1961年に発足、北海道唯一のプロ・オーケストラとして、「札幌」の愛称で親しまれている。透明感のあるサウンドとパワフルな表現力は
雄大な北海道にふさわしいオーケストラとして広く知られている。歴代指揮者は名誉創立指揮者の荒谷正雄、ペーター・シュヴァルツ、
岩城宏之、秋山和慶、尾高忠明、マックス・ボンマー、円光寺雅彦、高関健、ラドミル・エリシユカなどが務めた。現在、首席指揮者のマティアス・
バーメルト、名誉音楽監督の尾高忠明、友情客演指揮者の
広上淳一、指揮者の松本宗利音を擁する。年に約120
回のオーケストラ・コンサートをを行うほか、積極的に地域
活動に参加、年に約50回の小編成での教育福祉活動を
道内各地で展開している。海外公演はこれまでに、アメリカ、
英国、ドイツ、イタリア、東南アジア、韓国、台湾を訪問し、
各地で好評を博した。

公式ホームページ www.sso.or.jp



©Yasuo Fujii



SAPPORO SYMPHONY ORCHESTRA

●やむをえぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、出演者・曲目変更などのために払い戻しはいたしません。あらかじめご了承ください。●未就学児の入場はご遠慮いただいております。

毎日の食卓へ笑顔をお届けする ホクレンは、北海道の美味しい農畜産物を全国にお届けする、JAの連合会です。

ホクレン

<http://www.hokuren.or.jp/>